

平成26年度 特別推進研究 審査の所見

研究課題名	多機能なコヒーレントナイキストパルスの提案とそれを用いた超高速・高効率光伝送技術
研究代表者	中沢 正隆
審査の所見	<p>本研究は、光信号伝送システムの極限的な伝送容量を時間軸の有効利用で目指すものであり、学術的に大きな意義がある。応募者は、光ナイキストパルスの重要性をいち早く提案した先駆者であり、超高速光パルスや光ソリトンを用いるテラビット級の光 TDM 信号の伝送に世界で初めて成功するなど、多くの世界的な研究実績を上げている。</p> <p>本研究の実施により、我が国の研究水準の大幅な向上に貢献することが期待できることから、特別推進研究として採択することが適当であると判断した。</p>